

令和3年度 県立学校プロジェクト学習推進事業
実施報告書【課題実践校用】

学校番号	34
学校名	富山県立福岡高等学校

学校の現状と課題	本校は、県内唯一の英語コースを有する普通科単独校であり、英語セミナー、英語講演会、英語スピーチコンテスト、英国語学研修などの語学教育、国際理解教育に積極的に取り組んでいる。一昨年度より、「生徒の意見や考えを引き出す」授業研究に取り組み、ICTの利用などを含め、コロナ禍でもコミュニケーション力を養成するように工夫を行ってきた。今後も国際社会で活躍するグローバル人材の育成のために、英語コースだけではなく、全生徒が自ら考え、自分の意見を堂々と主張したり、討議したりできる力を育成していくことが課題である。	
テーマ(特色)	意見や考えを英語で発信できるグローバル人材の育成	
設定した「テーマ」の達成状況	英語による発信力をコロナ禍でも継続して養成するため、授業の工夫を図った。各授業において、必ず意見交換や議論を確保することにより、自分の意見を英語で伝えることが当たり前となっている。10月には、自分の意見を発信する力を高めるための校内スピーチコンテスト、7月と12月には体験学習としての英語セミナー、海外の留学生との交流、11月にはキャリア教育の視点も入れた英語講演会を実施し、英語で発信する機会の確保とグローバルな視点を養うことができた。3月には、英国語学研修の代替研修として行うオンライン研修により、意見や考えを英語で発信できる機会を企画している。	
実施内容 (具体的に記入する)	①英語の授業では、意見や考えを引き出すために、ペアワークからディスカッションやディベートなどのグループ活動の継続を図った。 ②英語セミナーでは、県の国際交流員や高校の外国語指導助手によるワークショップなど様々な体験学習を通し、英語コミュニケーション力の向上を図り、異文化理解を深めた。 ③校内英語スピーチコンテストを開催し、2学年、3学年の英語コースの予選を勝ち抜いた14名がそれぞれの経験や意見をジェスチャーを交えながら流暢な英語で発表した。今年は各スピーチの後、英語によるQ&Aセッションを設け、さらに深い視点で意見や考えを述べることを試みた。2・3年の英語コースが会場に参加し、1年生全員がスピーチをオンラインで聴講した。自らの意見や考えを人前で発表し、質問に堂々と答える姿に皆、刺激を受けた。 ④2年英語コースの国内英語研修プログラムでは、東京のトップレベルの大学で学ぶ様々な国籍の外国人留学生、外国人講師との交流を通し、異文化への理解と寛容を育んだ。英語でのコミュニケーションを通し、グローバルな思考や意見の主張、積極性の大切さを学んだ。最終日の個人プレゼンテーションでは、「My Goals for the future and steps I will take to achieve these goals」の発表を行った。世界を舞台に学ぶ外国人留学生の勤勉な姿、夢を追う姿に大いに刺激を受け、自らの目標を描きかけとなった。 ⑤英語講演会では、駒沢大学グローバル・メディア・スタディ学部のティム・アシュウェル教授を招き、大学の模擬授業の体験を通して、これからの英語力の向上とその方策について学んだ。	
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	・プロジェクト学習を通して、生徒が考えや意見を英語で述べる機会を作ることにより、コミュニケーションの時間が長くなり、その内容も深くなった。 ・ネイティブの講師と接する機会を増やすことにより、積極的に英語でコミュニケーションを図る態度がさらに身についた。 ・グローバル人材育成の観点からGTECの結果をセファール(CEFR)の基準に照らし合わせると、1年生の8割がA2.1レベル(海外ホームステイや語学研修を楽しめるレベル)である。また、2年英語コースの8割がA2.2レベル(海外の高校の授業に参加できるレベル)、3年の英語コースの8割がA2.2からB1レベル(海外進学を視野に入れることができるレベル)を達成した。実用英語技能検定では、5名の生徒が準1級を取得し、5名全員がB2レベル(大学での専門教育を英語で学べるレベル)を達成した。	
対象者(学年・人数など)	1学年120名、2学年英語コースを含む50名、3学年英語コースを含む50名	
実施実績	4月	
	5月	
	6月	
	7月	英語セミナー、小学校英語授業サポート
	8月	小学生英語教室の実施
	9月	
	10月	校内英語スピーチコンテストの実施
	11月	グローバル研究公開授業
	12月	英語セミナー(国内英語研修プログラム)の実施、英語講演会
	1月	
	2月	英語探究の授業でのディベートの実施
	3月	海外研修代替オンライン研修(予定)